

みなと元町 TOWN NEWS



発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

阪急電鉄・花隈駅と地下鉄海岸線・みなと元町駅から中突堤客船乗り場へ

地元の要望で、波形ウエーブの歩道を実現したマリンロード(元町ストリート白書⑩)

元町通4丁目と5丁目の境目になる南北の通りをマリンロードという。マリンロードの名称は平成2年10月、元町4・5・6丁目商店街振興組合、元栄海4丁目町内会、元町通5丁目自治会の総意で協議会に提案された。

平成3年5月に開いたタウン協議会の専門委員会で、マリンロードの名前は、将来の中突堤再開発を見越しての愛称であるが、花隈駅前通商店街会長の阿部功一から、日本火災跡地(現こうべまちづくり会館)及びウォーターフロント開発の結果を見守り再度検討してはとの発言で、いったん白紙に戻したものの同年7月、協議会定例役員会で、各団体の会長、理事長の賛同を得、同年8月「マリンロード」の名称は、神戸市として正式な通り名に採用された。

名前はきまったものの、道路整備の動きはなかった。マリンロードではじめてクリーン作戦を実施したのは平成9年9月18日。実施したのは花隈通駅前商店会を中心に、栄町通、海岸通の沿道企業、元町5丁目商店街の協力者に神戸市の関係者など総勢21名が参加した。マリンロード沿いの店からチャイナドレスの従業員、ネクタイ姿のビジネスマンなどが集まり、ごみや空缶、タバコの吸い殻のほか、電柱に貼りつけられた不動産や風俗店、サラ金業者のチラシなどをはがすのに汗をかいた。

クリーン作戦を契機に阿部功一は、道路整備の窓口となるマリンロードを考える会を結成する。平成11年度の神戸市によるマリンロード整備計画には、商店街との交差点は歩行者優先とし、車のスピードを抑える配慮などの考えも添えられていた。これをうけてマリンロードを考える会は平成11年3月、沿道の

会員を集め意見を集約、地元としての要望を10項目にまとめ提出する。

- ①車道を狭め歩道を広くは、地元が希望していたもの
- ②元町商店街との交差点は、商店街通行歩行者を優先する
- ③歩道幅は最小でも2.5メートルとする
- ④マリンロード全体の歩道形式は統一
- ⑤歩道はマリンロードの名前にふさわしい波形で特徴をだすように
- ⑥歩道面に、××方面を示す埋め込みのサインボードの設置を
- ⑦通行量の多い歩道部に、案内板を
- ⑧足元を照らす歩道照明の設置を
- ⑨車止めは、マリンロードらしく船止め形に
- ⑩車止は、照明を兼ねる設備を

協議会からの要請をうけ、中央幹線から海岸通りまでの歩道は、すべて波形につくられ、街路樹にこぶしを配し、街灯も設置して完成した。

マリンロードが完成して1年後、協議会は地元の人を対象に、改装後の道路によせる思いをアンケート方式により調査した。「まあまあ」を含めてよくなったとする人が94%で、主な理由として、街灯で明るくなった、歩道が広がった、路上駐車しにくくなった、の3点をあげている。

中央幹線からマリンロードを南に下ってみる。東側には洋



元町・夢街道

川瀬日進堂

岩田照彦

時の経過をへて、時代の要請に応じた出版物に挑戦する書店が登場する。明治二十九(一八九六)年、熊谷久栄堂では開業した川瀬日進堂である。光吉は、教科書やその関連の本をはじめ、幅広い書籍の販売にたずさわっていきながら、書物を売り歩くなかで興味をひいたのは、開港の町を象徴する貿易に携わる人たちの活気だった。中国人を間にする取引があり、居留地に店をもつ西洋人との取引もある。開港三十年史は、貿易の実態にかなりのスペースを割いてい

る。元町一丁目は、居留地に近い。居留地でのそうした心ない事件を耳にしていたに違いない。外国人との取引を公平に進めるために必要なことは自由意思を通じて合意することだ。言葉を学ぶ書籍の力で取引を応援する、光吉の思いに寄り添ったのは弟の三郎だった。

内外貿易の拡大で、貿易商の数は増えたが、「たぶらかすこと」を資本とするもの、居留地外商と交渉能力もないものに、ただ内地の荷主を苦しめる者あり、兵庫県は明治十二(一八七九)年二月、当該商品組合への加入を義務付ける。明治十九(一八八六)年の調査で、一定の資本をもつ有力貿易商として、元町通から三丁目の池田清助、四丁目山口吉左衛門、六丁目松本善七のほか、北長狭通、栄町通、海岸通、下山手通から四人、合わせて七人を紹介されている。明治二十(一八八九)年四月、内外取引慣行の悪弊を改め、弊害予防のため、商品別に売込業者の組合が発足する。明治二十四(一九〇一)年九月の神戸商業会議所月報に「我が国開港場に於ける内外取引の実情を知るものは、誰か其の内商の卑屈にして、外商の乱暴なるに驚かざるものあら

ず。元町一丁目は、居留地に近い。居留地でのそうした心ない事件を耳にしていたに違いない。外国人との取引を公平に進めるために必要なことは自由意思を通じて合意することだ。言葉を学ぶ書籍の力で取引を応援する、光吉の思いに寄り添ったのは弟の三郎だった。三郎もまた熊谷久栄堂につとめていたが、退職して米国へわたり、帰国後の明治三十四(一九〇一)年、岩本修文堂を買い取り、多聞通りで川瀬三郎書店をひらいている。米国への留学に、光吉の後押しがあったことだろう。光吉は、教科書関連書物のほか、版をかきねた外国貿易事務研究など、時代が求める貿易や言語の世界をひろめていく。大正七(一九一八)年六月、合資会社として登録した川瀬日進堂は、事業目的を書籍雑誌の取りつきと輸入販売、としてのいる。太平洋戦争が勃発した昭和十六(一九四一)年、川瀬日進堂は、言語学の教科書「簡明言語学」を出版、書店に携わった。昭和二十年、元町全域が空襲による焼夷弾の餌食になった後、川瀬日進堂書店の名前は元町から消えたまま

栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は10月12日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(元栄海三丁目協和会)奈良山喬一、(神戸市役所)坂田竜一・田中淳也、(兵庫県信用組合)田中祥平・宮本善弘・城隆輔・常深雅子、(広島銀行)梅田尚志、(トマト銀行)岡本昭彦、(三鈴マシナリー(株))水口裕美子・田中梨沙、(大一産業)高橋美樹子、(榊神明)嶋花織、(神明倉庫)藤尾憲弘・米澤彩香、(榊イーエスプランニング)藤岡翔義、(佐野運輸)北島幸宏・末松明、(走水神社)児嶋英毅、(新光明館)中川俊・西村友博・藤田直之・篠原博明・大森貴美子、(佐田野不動産(株))佐田野宏之以上、25名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



編集後記

協議会地域を対象に、自治会や婦人会、協議会の下部団体などがクリーン作戦を行っていている。実施のたびお目にかかるのが、使い捨てのビニール傘だ。生ごみや荒ゴミの定期収集日にも、使い終わったビニール傘が何本かみられるという。いまやまちのどこでもお目にかかるビニール傘は、気まぐれに捨てられるものでもあり、使い捨てられたビニール傘が、先日のような強風に吹き飛ばされ、人体めがけて飛んできた。その破壊力を想像するだけで身の毛がよだつ、と思わ

神戸元町商店街 楽市楽座 11月

- ◇元町1番街商店街振興組合 TEL331-7850
 - 元町占い市 11月14日(水)12時~17時
 - 元町1番街水曜日 11月21日(水)10時~19時
- ◇元町5丁目商店街振興組合 TEL341-6819
 - FLAMENCO in MOTOMACHI 5
 - 11月11日(日)①13時~ ②15時~
- ◇元町6丁目商店街振興組合 TEL367-5477
 - モトロク市 11月10日(土)11時~17時
 - (毎月第2土曜日開催)
- ◇風月堂ホール(有料) TEL321-5555
 - もどまち密席「恋離亭」 11月10日(土)
 - 笑福亭 松五 桂まん我 笑福亭 遊喬
 - 桂 枝女太 桂 勢朝 桂 きん枝
 - 前売券は10月11日より風月堂で発売
- ◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL361-4523
 - 11月1日(木)~11月6日(火)
 - 第27回 葦の会展(油彩・水彩・その他)
 - 11月8日(木)~11月13日(火)
 - 第17回ぐるっぺ「ヒロ」写真展(写真)

か。製造販売する業界はどのように認識されているのか、「公共の場での使い捨てゼロ対策」についてどうのようなお考えかか

